

石巻市の復興まちづくり (第65回)

このコーナーは、今後の復興まちづくりに関する情報をお知らせします。

今回は、防災・減災のまちを目指して整備を進めている各施設について、概要やスケジュールなどを紹介します。

安心・安全のまちづくり

- 防災・減災のまちを目指して -

市は、震災をはじめとしたさまざまな災害に迅速かつ適切に対応するため、防災センターの整備を進めています。

また、今後、東日本大震災のような地震による津波が発生しても、津波の威力を減勢し市街地の被害を最小限に抑え、多くの人が安全に避難できるように、道路整備や防災緑地の整備にも取り組んでいます。

今回は、現在整備を進めている防災・減災のための施設について、整備状況やスケジュールなどを紹介します。

防災センター

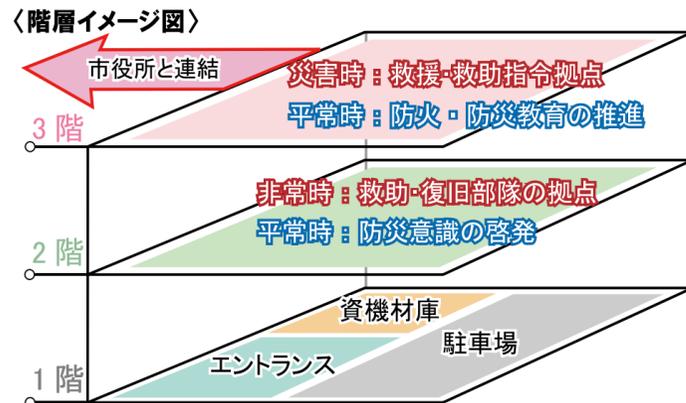
防災センターとは？

災害が発生した際に的確かつ迅速に被災状況を把握し、救命・救助、適切な支援物資の分配、避難や災害復旧の指示などを行うための施設です。

また、その対応を臨機応変かつ速やかにできるように、地域の防災拠点や避難所、自衛隊をはじめとする関係機関との連携を図ります。

◆防災センターの概要

●建設概要	●施設機能
建築面積：768.36㎡ 延床面積：1,791.06㎡	備蓄倉庫、地域防災機能、災害対策本部機能、情報収集・発信機能など
建物の3階は、市役所と連絡通路で連結させ、災害時に相互の連絡体制を確保します。 また、1階は津波浸水時に施設が被害を受けないよう、ピロティ式の駐車場とします。	



◆工事進捗状況



◆今後のスケジュール

平成30年3月：工事完了 平成30年5月下旬：供用開始

☎ 危機対策課 (内線 4165)

道路整備・防災緑地

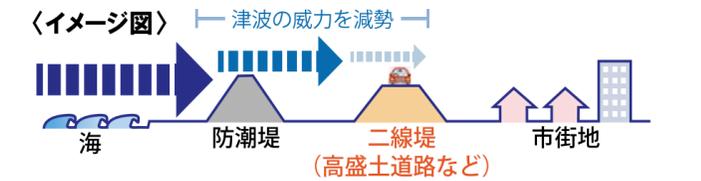
市は、東日本大震災の教訓を生かし、沿岸部の防潮堤内側に二線堤となる高盛土道路や防災緑地、沿岸部から内陸部へ迅速かつ安全に避難するための避難路などの整備を進めています。

ここでは、高盛土道路の一部である門脇流留線や、それに続いて整備される防災緑地2号、沿岸部から内陸部へ続く渡波稲井線について紹介します。



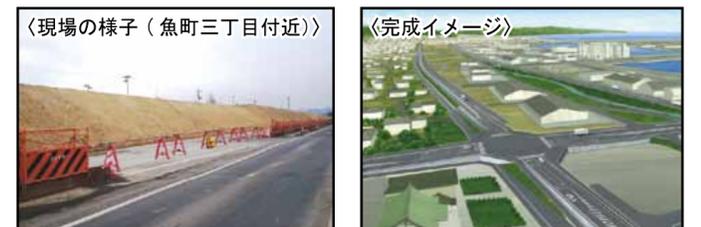
◆防潮堤と二線堤の関係

海側に整備する防潮堤に加え、二線堤として高盛土道路などを整備することで、津波の威力を減勢する効果があります。



◆門脇流留線

門脇流留線は、可住地と非可住地の境界となる部分を、多重防御機能を備えた高盛土道路として整備します。また、非可住地(南浜地区など)を通る部分は高盛土道路とせず、既存道路の再整備や新規道路の整備をします。完成目標年次：平成32年度

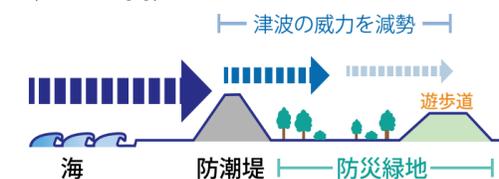


☎ 県東部土木事務所 (☎ 94-8763)

◆防災緑地2号

防災緑地2号は、渡波地区の海岸沿いに、門脇流留線に続くよう盛土形式の緑地を配置します。高盛土道路と同様に、津波の減勢を図ります。完成目標年次：平成32年度

◆イメージ図



☎ 基盤整備課 (内線 5515)

◆渡波稲井線

渡波稲井線は、沿岸部から内陸部へ迅速かつ安全に避難するために、既存道路の再整備や、既存道路の北側に向けて新規道路を整備します。新規道路の区間は、牧山北側の東側にトンネルを通すことで、牧山北側まで抜けられるようになります。完成目標年次：平成32年度



☎ 都市計画課 (内線 5629)